

| | | | | | | | |
|---|-------|----|----|----|-----|--------------|----|
| 秋咲きアリウム属種間雑種の切り花用新品種「ハイブリッドアリウム1号」 | | | | | | | |
| [要約] 子房培養により作出したラッキョウとヤマラッキョウとの種間雑種の中から、花茎がラッキョウより太く長く、花球が大きく、小花数も多い切り花用秋咲きアリウム「ハイブリッドアリウム1号」を育成した。 | | | | | | | |
| 福井県農業試験場・園芸バイテク部・バイテク研究グループ | | | | | 連絡先 | 0776-54-5100 | |
| 部会名 | 野菜・花き | 専門 | 育種 | 対象 | 花き類 | 分類 | 普及 |

[背景・ねらい]

観賞用に栽培されているアリウム属のほとんどは春から初夏に開花する。ラッキョウの花は観賞用としては市場性が低いが、秋咲き性がある。そこで、子房培養を用いて、ラッキョウを他の種と交雑することによって、切り花用秋咲きアリウムを育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

昭和63年にラッキョウ「ラクダ系福井在来」とヤマラッキョウを種間交雑し、子房培養により雑種個体を得て、系統選抜により育成した。平成8年から11年の3年間、特性検定を行い、その優秀性が認められた。平成12年度に種苗法に基づく品種登録出願を予定している。

2. 形態的特性

花卉の色は赤紫で、花の形状もラッキョウとほぼ同じである(図1)。花茎の長さは46cmでラッキョウの1.5倍以上あり、花茎の太さも3.2mmと太くて硬い。花球の大きさは直径60mm程度の正球形で、小花の数も65と多くラッキョウの4倍程度ある(図1、表1)。

3. 生態的特性

生態的にはラッキョウとよく似ており、開花期は10月下旬から11月上旬で、ラッキョウとほぼ同じかやや遅い。植え付け初年目は花の発育が悪いので、収穫は2年目の秋になるが、抽台株率は100%と高く、抽台数も株当たり5.6とラッキョウより多い(表1)。

8月の休眠期における球根の状態は、分球数が5.7でラッキョウよりやや少ないものの1球重は14.6gとかなり大きい(表2)。

球根の肥大が終了し、抽台が始まる前の6月頃が最も生育旺盛で、葉長が62cm、葉幅が8.4mmでラッキョウよりかなり大きくなる。ただし分球数が少ないため、株当たりの葉数は少ない(表3)。

4. 切り花としての評価

東京、大阪等の市場における試験販売での評価は高い。

[成果の活用面・留意点]

全般に病害虫が少なく、栽培は容易であるが、ラッキョウと異なり7月上旬に抽台を始め、それ以降ネギコガが花らいや花茎を食害するので防除に努める。

[具体的データ]

表 1 開花特性比較

| 品種 | 植付け 球重 (g) | 花茎 | | 花球 | | 小花 | | 花弁色 | 開花期 (月/日) | 抽台株率 (%) | |
|--------------------|------------------|-----|------------|-----------|-----------|-----------|----|-----|--------------|-------------|-----------|
| | | 数 | 長さ (cm) | 径 (mm) | 縦 (mm) | 横 (mm) | 数 | | | | 径 (mm) |
| | | | | | | | | | | | |
| ハイ・リッド・アリウム1号 | 5.8 | 5.6 | 46 | 3.2 | 62 | 61 | 65 | 11 | 赤紫 | 10/31 | 100 |
| ラッキョウ(ラタ系福井在来) | 3.6 | 2.2 | 28 | 2.4 | 41 | 51 | 15 | 11 | 赤紫 | 10/27 | 40 |
| ヤマラッキョウ | 5.2 | 2.3 | 39 | 2.8 | 41 | 48 | 67 | 9 | 薄赤紫 | 10/29 | 30 |
| ハイ・リッド・アリウム1号(1年目) | 5.8 | 1.0 | 25 | 2.8 | 45 | 50 | 24 | 10 | 赤紫 | 10/29 | 30 |

注 1) 砂土に条間30cm、株間15cmで1998年8月19日定植、栽培管理はラッキョウに準じた。

注 2) 調査時期は1999年秋の開花期で、1年目は1998年秋の開花期

表 2 球根特性比較

| 品種 | 分球数 | 全球重 (g) | 1球重 (g) |
|----------------|-----|------------|------------|
| ハイ・リッド・アリウム1号 | 5.7 | 83 | 14.6 |
| ラッキョウ(ラタ系福井在来) | 6.7 | 56 | 8.3 |
| ヤマラッキョウ | 4.6 | 12 | 2.6 |

注 1) 砂土に条間30cm、株間15cmで1998年8月19日定植、栽培管理はラッキョウに準じた。

注 2) 調査時期は1999年8月2日

表 3 地上部の生育特性比較(砂土、8月定植後順次調査)

| 品種 | 12月 | | | 6月 | | | 11月 | | |
|----------------|-----|------------|------------|------|------------|------------|------|------------|------------|
| | 葉数 | 葉長 (cm) | 葉幅 (mm) | 葉数 | 葉長 (cm) | 葉幅 (mm) | 葉数 | 葉長 (cm) | 葉幅 (mm) |
| | | | | | | | | | |
| ハイ・リッド・アリウム1号 | 5.5 | 47 | 5.4 | 17.6 | 62 | 8.4 | 37.1 | 46 | 4.2 |
| ラッキョウ(ラタ系福井在来) | 6.6 | 43 | 4.6 | 18.4 | 52 | 5.9 | 53.5 | 43 | 3.7 |
| ヤマラッキョウ | 3.3 | 32 | 2.8 | 5.9 | 28 | 3.4 | 7.2 | 27 | 2.7 |

注 1) 砂土に条間30cm、株間15cmで1998年8月19日定植、栽培管理はラッキョウに準じた。

注 2) 調査時期は1998年12月2日、1999年6月6日、11月5日



図 1 ハイ・リッド・アリウム1号の定植2年目の草姿(左)と両親比較(左からラッキョウ、育成種、ヤマラッキョウ)

[その他]

研究課題名 : アリウムの新品種育成

予算区分 : 県単

研究期間 : 平成11年度(昭和63年~平成11年)

研究担当者 : 野村幸雄、数馬俊晴、土屋孝夫、永井輝行

発表論文等 : なし